

令和6年度 伊那市立東部中学校 グランドデザイン

学校教育目標

- (1) 真剣にねばり強く学習する生徒
- (2) 広く豊かな心を持つ生徒
- (3) 勤労を尊び、仕事に打ち込む生徒

めざす子どもの姿

- すず竹** すず竹のごとくねばり強く
自分で考え、学習や勤労に自ら取り組む
- 学舎に魂合わせ** ともに認め合い・助け合い、
お互いを尊重し合える生徒

本年度の重点目標 東部中 Pride

「東部中のもつ活気と躍動感」をつなげる心意気。
「東部中らしさ・東部中として」と誇れる思い。

自主・自立

「自分で考え」「自分が決め」
「自ら動く」

- ・自分を知り、あらゆる場面で自分が決める機会を
- ・授業で育てたい主体性・自主・自立の力

多様な学び～自己理解から～

「違うからこそ学び合う」
「違いを認め合う広さ深さ」

- ・自分らしい生き方へ
- ・「独りになる」「誰も一人にしない」
- ・授業で一人一人の学びを保証

学校長の願い

活気と躍動感あふれる東部中学校を目指し、主体的に、自ら考え、自ら行動できる生徒を育てたい。
個を尊重し、認め合う集団を育て、一人を大切にしながら、共に地域・社会へ思いを発信できる生徒を育てたい。

生徒会活動の目標

- 「学校生活」の向上と充実を図る。
- 学年間をこえた活動に、自主的に取り組み、一人一人が所属感、達成感を味わう。
- 「さくらプロジェクト」：仙台市立高砂中学校と互いの良さを学び合い、両校の絆を深める。

子どもを真ん中にして やわらかく包み込む東部中

活気と躍動感ある学校

- ・生徒の自主性を育て、成就感が得られる総合・生徒会行事「すず竹祭・合唱発表会」「祖父母に感謝する会」
- ・友のよさや互いにに関わり合う喜びを味わう学年行事の創造
- ・全職員による個々の生徒に寄り添ったチーム支援
- ・「Student First」の精神に基づく自主・自立する部活動

問いのある授業

全校研究テーマ「学び合いのある学習」

～一人一人が生きる授業の創造～

生徒一人一人の思いや考え、学びの道筋を捉え、その生徒らしさが生きる学習活動を展開する。そのために「観る」「聴く」「伝える」の3視点を重視した授業を構想するとともに、生徒の姿を通して、この3視点で教師自身が授業を振り返る。このプロセスの中で仲間、家族、地域とつながる生徒を育てていく。

ひらかれた学校

- ・東部中CSによる学校、家庭、地域が一体となった学校教育活動のさらなる充実（支援・評価・助言）
- ・安心安全な学校生活を支える教育環境推進協議会（すず竹あいの会）
- ・子ども相談室、SC、SSW、中間教室等との連携
- ・学区内小学校5校との情報交換や協議（小中連携会議「夢をつなぐ」）

【1】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ねらいを明確にした「学習問題」、自他の伸びを認め合う「振り返り活動」
- 探究的な学習場面で互いの違いを認め合い深めていく「協働的な学び」
- 一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じた「指導の個別化」

【2】学習内容の定着、学力伸長のための取組

- 学習委員会による「学びの足跡」の掲示
- 学習委員会が運営し、自らが選択し、行動する朝タイム（8:15～8:25）
- 個別の課題克服や学習相談に応じる「ひたすらタイム」「質問タイム」
- 知識・技能をはじめ、定期テストに頼らない学習評価の検討
- 全国学調、総合学力調査等の結果分析を基にしたPDCAサイクルの構築
- 学校ボランティアによる学力向上支援事業（放課後補習授業）

伊那東部中学校「学び合い」style



【3】個別最適な学び～生徒自ら学習をコーディネートする力の育成～

- 自分の学びと自分の生き方を見つめる「自分学」
- 授業と関連づけた家庭学習による「学びの連続性」構築
- 探究力や自分の言葉や図でまとめる力を育む自学ノート

【4】多様な学びの場をつくりだす取組

- 相談室や通級指導教室、日本語教室等、その子に応じた学習環境の整備
- 「学び舎」「つどい」等、学びのスタイルに応じた学習スペースの活用
- 個々の学習をサポートし伸ばす力をさらに高めるツール（手段）の活用

【5】授業力を高めるための教員の研究・研修

- 各教科の目標に応じた資質・能力を育成するための授業改善
- 各教科会による研究 テーマに沿った授業研究作り・公開
- 教科等横断的、普遍的な資質・能力を育成するための職員研修
- 0JT グループ研修 定期的な研修会を行い教科を横断して共有

信頼され、安心で安全な学校づくりのための取組

職員研修

- ・職員会議での研修会（0JT）
- ・教師としての資質向上研修
- ・事例に学ぶ非違行為防止研修

学校評価

- ・匿名性を担保した評価
- ・回答しやすいようICTを活用
- ・生徒による授業評価の実施

情報発信

- ・学級、学年通信の発行
- ・学校ホームページの充実
- ・個人情報の適切な取扱

業務改善

- ・子どもと向き合う時間の確保
- ・授業準備、教材研究の充実
- ・スクールサポートスタッフによる支援